

総会報告

第 28 回通常総会報告

日 時：平成 22 年 3 月 24 日(水) 13 時 00 分～15 時 00 分
 会 場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷 2-35-10）
 出席社員数：95 名（内委任状 65 名）
 （社員数総数：109 名，総会成立の定数 55 名以上）

議 案：

- | | |
|--------------------------|-----------|
| (1) 平成 21 年度事業報告 | 【第 1 号議案】 |
| (2) 平成 21 年度決算報告 | 【第 2 号議案】 |
| (3) 平成 22 年度事業計画 | 【第 3 号議案】 |
| (4) 平成 22 年度予算計画 | 【第 4 号議案】 |
| (5) 個人会員除名処分の件 | 【第 5 号議案】 |
| (6) 平成 22 年度役員の内 | 【第 6 号議案】 |
| (7) 平成 22 年度評議員の内 | 【第 7 号議案】 |
| (8) 非営利型一般社団法人への移行にかかわる件 | 【第 8 号議案】 |

議 事：

午後 1 時 00 分，定款第 24 号に基づき榊原伸介会長が議長となり，出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第 28 回通常総会の開会を宣した。

次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第 1 号議案】

平成 21 年度 事業 報 告
 （自平成 21 年 1 月 1 日 至平成 21 年 12 月 31 日）

I 庶 務

1. 会員状況

	平成 21 年 12 月 31 日現在	平成 20 年 12 月 31 日現在	増減
名誉会員	8 名	8 名	0 名
正会員	3,034 名	3,035 名	1 名減
学生会員	1,168 名	1,079 名	89 名増
賛助会員	65 団体 (92 口)	71 団体 (99 口)	6 団体減 (7 口減)

2. 第 27 回総会

会 期：平成 21 年 3 月 10 日(火)

会 場：本郷瀬川ビル

出席社員数：103 名（うち委任状提出：72 名）

（正社員総数：111 名，総会成立の定数 56 名以上）

議 題：平成 20 年度の事業・決算案，平成 21 年度の事業計画・予算案，個人会員除名処分，理事・監事の選任の内，評議員の選任の内

上記について審議し，議決した。

3. シンポジウム，講習会等の主催，共催，協賛，後援（定款第 5 条 1 号，5 号）

- (1) シンポジウム，講演会，講習会等 8 件を主催した。
- (2) シンポジウム，国際会議，講習会，コンテスト等 10 件を共催した。
- (3) シンポジウム，国際会議，講演会，講習会，展示会，研究会等 98 件を協賛した。
- (4) シンポジウム，国際会議，講習会，コンテスト，展示会等 24 件を後援・協力した。

4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- | | |
|-------------------------|-------------|
| (1) 会誌編集委員会 | (委員長：三浦 純) |
| (2) 欧文誌委員会 | (委員長：稲邑哲也) |
| (3) 事業計画委員会 | (委員長：相山康道) |
| (4) 国際委員会 | (委員長：大隅 久) |
| (5) 研究協議会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (6) 出版事業委員会 | (委員長：相山康道) |
| (7) 電子化運営委員会 | (委員長：川村貞夫) |
| (8) アドバイザリーボード | (委員長：榊原伸介) |
| (9) 将来ビジョン策定委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (10) 事務局体制検討委員会 | (委員長：川村貞夫) |
| (11) 第 27 回学術講演会実行委員会 | (委員長：藪田哲郎) |
| (12) 表彰委員会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (13) 第 23 回論文賞選考小委員会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (14) 第 24 回研究奨励賞選考小委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (15) 第 25 回研究奨励賞選考小委員会 | (委員長：川村貞夫) |
| (16) 第 14 回実用化技術賞選考小委員会 | (委員長：川村貞夫) |
| (17) 外部表彰選考小委員会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (18) 会員 5000 名拡大計画委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (19) 著作権管理委員会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (20) 学術講演会管理推進委員会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (21) 新公益法人制度対応委員会 | (委員長：榊原伸介) |

5. 役員および評議員の選出

平成 21 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

6. 評議員会，理事会

- (1) 平成 21 年 9 月 15 日(火)に第 26 回評議員会を開催し，会務報告と評議を行った。
- (2) 平成 21 年度中に 12 回理事会を開催し，会務の審議と処理を行った。

7. フェロー，名誉会員の選任

8 名のフェローを選任した。

8. 学会の基盤強化

(1) 会員種別の拡大

非専門家を対象とした準会員の新設や，高齢者層正会員への会費優遇措置の検討を開始した。

(2) 若年層の啓発活動強化

学術講演会において高校生・高専生対象のジュニアセッション，国際ロボット展において産業用ロボットハイスクールを実施した。

(3) 産業貢献活動強化

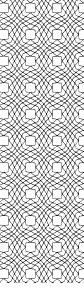
学術講演会において，各企業での事業活動紹介セッションを実施した。

9. 新公益法人制度対応委員会

- (1) 非営利型一般社団法人への移行に向け検討を行い，コンサルティング業者を選定し，契約を行った。
- (2) 会告(学会誌 12 月号，1 月号)ならびに HP にて，非営利型一般社団法人への移行に向け，準備中であることを会員に通知した。
- (3) 定款案に関する意見聴取を会員に対して行い，4 月以降の申請に向け，新定款案と公益目的支出計画を策定した。

10. 電子化運営委員会

- (1) ML の容量アップならびにホームページサービス改善に向け，学会サーバーの専用サーバーへの移行を検討した。
- (2) ロボット学会運営の効率化，会員サービスの向上に向け，新学会 DB への移行を行った。
- (3) 上記の認証システムと連動させることにより，AR 誌全員購読化を行った。
- (4) 学会ホームページサービス拡大の一環として，電子化ロボット用語集，全国ロボット研究室紹介，名誉会員，フェローリスト，過去の理事会名簿一覧・学術会議一覧・会員数推移一覧を整備



して公開した。

- (5) H20年度以前の学会誌のアーカイブを Journal@archive に移行し、一般公開した。
- (6) H21年度以降の学会誌アーカイブを J-Stage に移行することにつき、検討した。

11. 事務局

- (1) 事務局体制検討委員会を開催し、中長期的な事務局体制について検討した。
- (2) 電子化運営委員会と連携し、会員サービスとして各種関連行事案内を発信した。

II 事業 (定款第5条1号)

1. 学術講演会

(1) 第27回学術講演会

期 日：2009年9月15日(火)～17日(木)

会 場：横浜国立大学

組 織：実行委員長：藪田哲郎 (横浜国立大学)
プログラム委員長：河村篤男 (横浜国立大学)

発表件数：842件

19パラレルセッション

一般セッション：71セッション

オーガナイズドセッション：34セッション

展開セッション：23セッション

国際セッション：4セッション

合 計：132セッション

一般公開セッション：

「サイボーク技術は動き出すか？ —ロボット技術と人間機能の協調—」

特別講演：講師 福岡伸一教授 [青山学院大学理工学部]

テ ー マ：「生命を解くキーワード、それは“動的平衡”」

参加者数：1,426名

正 会 員：703名

学生会員：502名

非 会 員：89名

学生非会員：132名

2. ロボット工学セミナー

(1) 第50回シンポジウム「生活空間をセンシングする環境知能化」

期 日：2009年4月24日(金)

講 師：佐藤知正 (東大)、西田佳史 (産総研)、上田博唯 (京産大)、萩田紀博 (ATR)、長谷川勉 (九大)

オーガナイザ：羽田芳朗 (富士通研究所)

参加者：52名 (会員：19名、会員外：11名、学生：9名、
賛助優待：10名、同半額：3名)

(2) 第51回シンポジウム「ロボットの作り方2009」

期 日：2009年6月5日(金)・6日(土)

講 師：広瀬茂男 (東工大)、福島E.文彦 (東工大)、桑原裕之 (サスティナブルロボティクス)、塚越秀行 (東工大)、山田浩也 (東工大)、青木岳史 (東工大)

オーガナイザ：遠藤 玄 (東工大)

参加者：41名 (会員：11名、会員外：7名、学生：22名、
賛助優待：1名、同半額：0名)

(3) 第52回シンポジウム「IRT：ロボット技術と情報技術の融合によるイノベーション」

期 日：2009年6月26日(金)

講 師：高木宗谷 (トヨタ自動車)、山崎公俊 (東大)、横山大作 (東大)、中井亮仁 (東大)、佐藤知正 (東大)

オーガナイザ：原田達也 (東大)

参加者：44名 (会員：18名、会員外：8名、学生：11名、
賛助優待：5名、同半額：2名)

(4) 第53回シンポジウム「デジタルヒューマンの使い方」

期 日：2009年7月24日(金)

講 師：持丸正明 (産総研)、中村仁彦 (東大)、小野古志郎 (JARI)、奥本泰久 (近畿大)、山田直樹 (マツダ)、植竹篤志 (積水化学工業)

オーガナイザ：志子田繁一 (川崎重工業)

参加者：44名 (会員：20名、会員外：10名、学生：6名、
賛助優待：2名、同半額：6名)

(5) 第54回シンポジウム「産業現場で望まれるロボット技術」

期 日：2009年10月29日(木)

講 師：平井成興 (千葉工大)、小平紀生 (三菱電機)、榊原伸介 (ファナック)、安藤慎悟 (安川電機)、永田寅臣 (山口理科大)、武居直行 (首都大)

オーガナイザ：藤井正和 (III)

参加者：53名 (会員：22名、会員外：13名、学生：4名、
賛助優待：8名、同半額：6名)

(6) 第55回シンポジウム「共生ロボットの愛着のデザイン」

期 日：2009年11月20日(金)

講 師：松原 仁 (はこだて未来大)、黒須正明 (総合研究大学院大学)、ぜんじろう (吉本興業)、瀬名秀明 (東北大)

オーガナイザ：安藤友人 (日本電気)

参加者：24名 (会員：10名、会員外：4名、学生：5名、
賛助優待：5名、同半額：0名)

のべ参加者258名 (会員：100名、会員外：53名、学生：57名、
賛助優待：31名、同半額：17名)

3. 共催事業

国内共催事業：

(1) 第14回ロボティクスシンポジウム

期 日：2009年3月16日(月)・17日(火)

会 場：登別温泉 石水亭 (北海道)

実行委員長：田中孝之 (北海道大学)

プログラム委員長：鈴木高宏 (東京大学)

(2) 日本ロボット学会・自動車技術会合同フォーラム ぶつからない自動車とロボット

期 日：2009年5月21日(木)

会 場：パシフィコ横浜アネックスホール (神奈川県)

主 催：(社)自動車技術会、(社)日本ロボット学会

(3) ロボカップジャパンオープン2009大阪

期 日：2009年5月8日(金)～10日(日)

会 場：京セラドーム大阪 (大阪府)

企 画：ロボカップジャパンオープン2009大阪開催委員会

(4) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2009

期 日：2009年6月20日(土)・21日(日)

会 場：仙台市科学館 (宮城県)

主 催：ロボット競技会実行委員会

(5) 第9回レスキューロボットコンテスト

期 日：2009年8月8日(土)・9日(日)

会 場：神戸サンボーホール (兵庫県)

主 催：レスキューロボットコンテスト実行委員会、兵庫県、神戸市、(株)神戸商工貿易センター、読売新聞大阪本社

4. 出版事業

ロボット学会ホームページにて無償一般公開を開始したロボット用語辞典の、今後の有効利用法について検討を開始した。

III 学 会 誌 (定款第5条2号)

平成21年度より会誌の年10号化を行った。学会誌第27巻1号より10号を発行し、会員に配布した。各号の特集テーマは次の通りである。

第27巻1号 自動車とロボット

第27巻2号 次世代ロボット共通基盤プロジェクトとRTコンポーネント

第27巻3号 ニーズに基づいたロボット開発

- 第27巻4号 ロボット制御の理論
 第27巻5号 ロボット技術による宇宙開発の最前線
 第27巻6号 人間と共存し発展するロボットのためのビジョン
 第27巻7号 第26回学術講演会論文特集号Ⅰ
 第27巻8号 第26回学術講演会論文特集号Ⅱ
 第27巻9号 ロボットコンテストがもたらすもの
 第27巻10号 戦略的先端ロボット要素技術開発

上記のように特集号企画に関しては、本学会の専門性を活かしかつユニークな特集号の企画を進めた。本年度も、昨年度、一昨年度に続き今年度も学術講演会論文特集号を企画した。これは学術講演会での講演論文から、新しいコンセプトの提案、優れた学術成果、有用な技術に対して論文投稿を推薦し、学術講演会の研究発表件数の2割程度に留まっている論文投稿数の増加を目指したものである。今回は、昨年度、神戸大学で開催された第26回学術講演会での講演論文から190件の論文を推薦し、62件の投稿を得、査読結果に基づき最終的に30件の論文を、2号にわたって掲載した。また、さらなる論文投稿数の増加と当学会の対象とする学問領域の拡大を目指して、分野を絞った論文特集号の発行を開始し、その第一弾として「ロボティック・サイエンス」論文特集号を企画し、論文募集を行った。また、一般記事として、学会やイベントの報告記事の掲載を行った。

年間の論文投稿件数は229件（前年度212件）、判定結果は採録可45%（41%）、採録不可（再投稿を推薦）33%（50%）、採録不可22%（8%）であった。判定までの期間は平均112日、最短53日、最長266日（前年度は119日、28日、316日）で掲載までの期間は平均252日（285日）であった。再投稿を推薦した論文の再投稿率49%（40%）、採録率50%（86%）であった。広告については、目標金額700万円に対して達成率は約85%であった。

毎号学会誌の届くのが楽しみになるような企画という観点から、研究者による普段の生活に関連したコラム「研究者の日常 or 非日常」の連載を行っている。これは、研究の詳細な紹介というよりは、こだわりの趣味の紹介や留学体験記、研究での失敗談等幅広い話題を取り扱うものである。また、ロボットに関する有名人のインタビューをまとめる形式の「この人に聞く」という記事の連載を開始した。学会やイベントの報告記事の掲載も引き続き行った。

論文・解説記事等の電子化・アーカイブ化について検討し、JSTの提供するJ-STAGEおよびJournal@rchiveのサービスを利用することを決定した。

IV 欧文誌（定款第5条2号）

1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 23を発行した。各号の詳細は以下の通りである。

No. 1-2	09. 1月	発行済	一般論文（Double Issue）
No. 3	09. 2月	発行済	一般論文
No. 4	09. 3月	発行済	Cutting Edge of Robotics in Japan
No. 5	09. 4月	発行済	一般論文 Section Focused on Mobilization（2）
No. 6	09. 5月	発行済	一般論文
No. 7-8	09. 6月	発行済	Biomimetic Robotics(Double Issue)
No. 9	09. 7月	発行済	Disaster Response Robotics
No. 10	09. 8月	発行済	Intelligent Robotics and Automation
No. 11	09. 9月	発行済	Academic Road Map of Robotics in Japan
No. 12-13	09. 10月	発行済	一般論文（Double Issue）
No. 14	09. 11月	発行済	RO-MAN 2008
No. 15	09. 12月	発行済	IROS 2008

2. 論文の投稿、査読の状況

2009年における年間論文投稿総数は332件（一般論文・107件、特集号論文・225件）で、2008年より56件増加し、史上最高の投稿数を記録した。この状況は当該分野の論文投稿先として、欧文誌の評価が高まってきたことの表れと考えている。

投稿論文の採録率は、2006年は34.0%（一般論文33.0%、特集号論文37.7%）、2007年は39.6%（一般論文34.3%、特集号論文55.3%）、2008年は37.0%（一般論文30.7%、特集号論文45.6%）、2009年は40.2%（一

般論文32.8%、特集号論文45.7%）であった。

（参考）国・地域別投稿数の推移

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
日本	31	67	85	61	61	54	104	140
東アジア	10	14	22	55	47	58	81	66
南・中近東	14	11	14	18	15	26	26	29
欧州	11	17	22	29	40	26	40	53
アフリカ	3	1	1	1	1	2	3	5
北・南米	6	5	14	23	19	19	30	33
オセアニア	0	3	0	0	0	5	4	6
合計	75	118	158	187	184	190	288	332

3. 企画／編集／発行作業

購読者数の増加および投稿論文数の増加を目指して、いくつかの対策を行った。購読者数増については、各号の論文タイトルをRSJ NEWSによって会員へ電子メールにより配信するサービスを開始し、かつ、robotics world wide メーリングリストにも英語による最新号の紹介メールを配布する活動を開始し、論文投稿・購読を呼びかけた。また、投稿論文数増については、日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。さらに、日本のロボット研究の現在の動向、および、今後50年の研究ロードマップに関する「アカデミックロードマップ」特集号（和文誌Vol. 現在、欧文誌購読会員数は327名であり、2007年と比べて37名の購読者増となっている。今後も更なる増加のための努力を行っていく。

4. 全員購読化について

会員サービスの一環として、ロボット学会会員の欧文誌全員購読化に向けた具体策の検討を2007年度より継続的に行っており、全員無料購読化システムの構築が完了した。従来までのやや使いにくかった電子ジャーナルの認証システムを改善し、日本ロボット学会のウェブベースでのサービスを行うコンテンツ内で会員認証を行なうことでIngenta社の電子ジャーナルを購読することが可能になるシステムを構築した。今後もより良いサービスを広く提供可能になるような取り組みを推し進めていく。

5. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

・Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) が2009年6月の段階で0.737となり、2007年の0.504から大幅に増加した。これまでの投稿料無料と迅速な査読による質的・量的両面での向上、また別表に示す国際的認知度の高さによる結果と考えている。今後もランキングの上位を目指して評価の向上を図るべく努力していく。

・IROS2009の開催にあわせて国際編集委員会を開催し、海外の編集委員からの意見を広く聴取した。また、海外委員に今後の特集号の企画への協力を依頼した。こうした編集における国際化の努力もさらに進めていく。

・IROS2009の会場において、Academic Road Map of Robotics in Japan 特集号を参加者全員に配布する試みを実施し、1,200部準備した冊子のうち約1,000部を参加者の方々に配布した。また残りの200部についても、欧米の主要な大学に配布を依頼し、全てを配りきった。Advanced Roboticsの知名度の向上もさることながら、日本のロボット研究の最新動向、また将来へのロードマップを世界に周知するための貢献を果たした。

6. 共同事業者である Brill 社との契約・交渉

欧文誌全員無料購読化のため、従来までの購読契約を大幅に変更し、以下のような契約内容の更新を行った。

年間発行数：15号

1. 会員全員の電子購読料金 21,900ユーロ/年
2. プリント版 会員価格 300ユーロ（送料込み、一般価格は1,778ユーロ）

V 企画

1. 研究調査活動（定款第5条3号）

継続の調査研究委員会、研究専門委員会

前年度から継続して、以下の調査研究委員会、研究専門委員会活動



を実施。

- ・ロボット教育研究専門委員会
(委員長: 佐藤知正, 2008. 8 発足, II 種)
 - ・ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会
(委員長: 長谷川勉, 2008. 4 発足, I 種)
 - ・北海道ロボット技術研究専門委員会
(委員長: 小林幸徳, 2008. 4 発足, I 種)
 - ・カー・ロボティクス研究専門委員会
(委員長: 永井正夫, 2008. 4 発足, I 種)
 - ・ロボティック・サイエンス研究専門委員会
(委員長: 國吉康夫, 2008. 4 発足, I 種)
 - ・手の巧みさ研究専門委員会
(委員長: 横小路泰義, 2007. 1 発足, 2009. 1 継続, II 種)
 - ・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会
(委員長: 橋本秀紀, 2007. 1 発足, 2009. 1 継続, II 種)
- 新規設置の研究専門委員会**
- 基盤分野, 先端分野での研究調査活動, 地域支部機能の構築, 学生やポストドク研究者による自発的な研究コミュニティ形成活動の積極的支援を目指した新たな研究専門委員会を設置した。
- ・ネットワークを利用したロボットサービスとサービスロボット研究専門委員会
(委員長: 成田雅彦, 2010. 3 発足, I 種)
 - ・ロボット市場創造課題研究専門委員会
(委員長: 川村貞夫, 2009. 10 発足, I 種)
 - ・生活機能構成学に関する研究専門委員会
(委員長: 西田佳史, 2009. 10 発足, I 種)
 - ・RT 機能安全研究専門委員会(委員長: 山田陽滋, 2009. 4 発足, I 種)
 - ・身体性認知科学と実世界応用に関する若手研究会
(委員長: 尾形邦裕, 2009. 4 発足, I 種)
 - ・関西ロボット系若手研究者ネットワーク
(委員長: 栗田雄一, 2009. 4 発足, I 種)
 - ・ヒューロビント研究専門委員会
(委員長: 松下光次郎, 2009. 4 発足, I 種)

2. 規約等の制定・整備

- ・表彰規定の改定
 - 1) 表彰委員会規程を改訂し, 実用化技術賞は会員非会員を問わず受賞可能とした。
 - 2) ロボット活用社会貢献賞新設に伴い, ロボット活用社会貢献賞の選考規程を制定した。
 - ・研究専門委員会の会計処理改定
研究専門委員会の会計処理を改定し, 会計年度毎の会計処理とした。
 - ・フェロー選考基準の改正
フェロー選考内規を見直し, 基準を明確化した。
3. 表彰 (定款第 5 条 4 号)
- ・2009 年 9 月第 27 回学術講演会において, 論文賞 4 件, 実用化技術賞 2 件, 研究奨励賞 11 件, 功労賞 2 件, ロボット活用社会貢献賞 3 件の贈賞を行った。
 - ・ファナック FA ロボット財団の論文賞に 3 件を推薦し, 内 2 件が論文賞 (賞金 100 万円) を受賞した。
 - ・(財) 東レ科学振興会の東レ科学技術研究助成に 2 件を推薦した。

【論文賞】

- ・日常生活支援のための机上作業のモデル化およびその認識と支援軌道の生成
(日本ロボット学会誌 第 25 巻 第 1 号, pp. 81-91)
佐藤知正*, 久保寺秀幸*, 原田達也*, 森 武俊*
(* 東京大学)
- ・顕著性に基づくロボットの能動的語彙獲得
(日本ロボット学会誌 第 26 巻 第 3 号, pp. 261-270)
菊池匡晃*1, 荻野正樹*2, 浅田 稔*2*3
(*1 東芝 *2 JST ERATO *3 大阪大学)
- ・腹腔内組立式 3 指 5 自由度ハンド
(日本ロボット学会誌 第 26 巻 第 5 号, pp. 453-461)
大嶋律也*1, 高山俊男*1, 小俣 透*1, 大谷俊樹*2, 小嶋一幸*2, 高瀬

浩造*2, 田中直文*2

(*1 東京工業大学 *2 東京医科歯科大学)

- ・昆虫背脈管組織を用いた長期間室温で駆動するバイオアクチュエータの創製
(日本ロボット学会誌 第 26 巻 第 6 号, pp. 667-673)
秋山佳丈*, 寺田玲子*, 岩淵喜久男*, 古川勇二*, 森島圭祐*
(* 東京農工大)

【実用化技術賞】

- ・異形断面形状が成形可能な力制御スピニング加工機
荒井裕彦*1, 藤村昭造*2, 岡崎 功*2, 安斎茂宏*2, 長田恵一*3, 森田一久*3, 小山博美*4, 光永博文*4, 藤山三郎*5
(*1(独) 産業技術総合研究所 *2(株) 大東スピニング *3(株) テクニー *4 安川エンジニアリング(株) *5 野里電気工業(株))
- ・無軌道自律移動ロボットによる検体搬送ロボットシステム
村井亮介*, 酒井龍雄*, 三谷宏一*, 中嶋久人*, 上松弘幸*
(* パナソニック電工(株))

【研究奨励賞】

- ・池内真志 (名古屋大学)
セグメント薄膜ベローズを用いた極細径水圧駆動カテーテルの開発 / 第 26 回学術講演会 2K1-05
- ・大脇 大 (東北大学)
受動走行の背後に潜む安定化構造の解明 / 第 26 回学術講演会 3B1-09
- ・岡本正吾 (東北大学)
皮膚感覚呈示における時間遅れの影響調査と検知限の同定 / 第 13 回ロボティクスシンポジウム 2C4
- ・奥 寛雅 (東京大学)
ミリ秒高速液体可変焦点レンズとそのロボットビジョン応用への可能性 / 第 26 回学術講演会 3I1-03
- ・北 光一 (東北大学)
テールシッター型 VTOL 航空ロボットのホバリング制御 / 第 26 回学術講演会 3C2-04
- ・佐久間臣耶 (東北大学)
強磁化と磁場集中による磁気駆動マイクロツールの集積化 / 第 26 回学術講演会 2M1-03
- ・但馬竜介 (豊田中央研究所)
人間型ロボットによる高速走行の実現 / 第 26 回学術講演会 2O1-04
- ・伊達 央 (防衛大学校)
流体によって制御された蛇型推進機構 / 第 26 回学術講演会 3H2-02
- ・田中幸幸 (東京大学)
視覚 ID タグを用いたロボットのための形状モデリング / 第 26 回学術講演会 1L3-08
- ・中村太郎 (中央大学)
力学的平衡モデルに基づいた軸方向繊維強化型ゴム人工筋の可変剛性制御 / 第 13 回ロボティクスシンポジウム 5B2
- ・鍋島厚太 (東京大学)
適応的身体表象のための持続的な感覚運動変換調整法 / 第 26 回学術講演会 1N2-04

【功労賞】

- ・小菅一弘 (東北大学)
欧文誌の発展と国際的認知度向上への貢献
- ・油田信一 (筑波大学)
ロボティクスシンポジウムの設立と運営体制の構築

【ロボット活用社会貢献賞】

- ・森 政弘 (東京工業大学名誉教授)
ロボットコンテストという日本発文化の創造と, それによる国際的な規模での青少年によるロボット制作活動の普及と創造性教育に対する貢献
- ・青山 元 (富士重工業株式会社 戦略本部クリーンロボット部 部長)
サービスロボットの事業化およびビジネスモデルの確立
- ・特定非営利活動法人 ロボカップ日本委員会
ロボカップを通じたロボットの啓蒙とロボット工学の発展に対する貢献

【ファナック FA ロボット財団論文賞】

- ・尹 祐根, 末廣尚士, 音田 弘, 北垣高成
バイラテラル遠隔操作を利用したタスクスキルトランスファー手法
(日本ロボット学会誌 第25巻第1号, pp. 155-165, 2007)
- ・坂本直樹, 湯谷政洋, 東森 充, 金子 真
Maxwell モデルで近似できる粘弾性物体の最適ハンドリング
(日本ロボット学会誌 第25巻第1号, pp. 166-172, 2007)

VI 国 際 (定款第5条5号)

1. 国際委員会活動
国際委員会では、日本のロボット工学の優位性を保ちながら世界での存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための活動、及び国際会議、アジアロボット学会連合を始めとした交流を中心とした活動を行っている。これら現状の活動状況に合わせ、2009年度に旧来の国際委員会規程の修正を行っている。
2. 国際戦略の策定
2008年度までに、学会が国際化することの意義や会員サービスの視点からの利点などについて議論を行い、2009年度は、国際化に向けた戦略と、そのための具体的な取り組みについて議論を行った。これらは(1)学会から発信する情報の質と量の充実、(2)広報活動、(3)研究協力活動、(4)海外とのネットワークの構築に向けた取り組み、とまとめることができる。これらの中で可能なものから随時実行していくことが必要である。
3. 第27回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施
第27回日本ロボット学会学術講演会においても、日本滞在中の外国人研究者の学術講演会への参加を促進し、また、外国人研究者による最先端の発表を会員に提供するため、セッションの司会、発表、質疑応答の全てが、原則として英語で行われる国際セッションを設けた。
・合計19件の研究発表、及び韓国 KROS に対する招待講演1件があり、3テーマ、4セッションとして実施した。会場でのアンケート結果からは、参加者に対しては大変好評であった。
(1) Humanoid 1 (Walking) 4件
(2) Humanoid 2 (Application Planning and Control) 5件
(3) Networked Robots 4件
(4) Robotics Research by Foreign Researchers in Japan 7件
4. 国際会議への対応
・ROMAN Steering Committee への出席
2009年9月29日 21:00-23:00
・IROS Steering Committee への出席
2009年10月11日 12:00-17:00
5. 国際交流活動
第4回アジアロボットサミット (4rd Asian Robotics Society Summit Meeting (ARSSM)) を開催した。
・日 時: 2009年10月14日12時~14時00分
・場 所: ROOM NAME: Sterling 4(on the 2nd level), Hyatt Regency Riverfront St. Louis
・参加学会: オーストラリア Australia Robotics & Automation Association (ARAA), 中国 The CAA Robotics Society (CAA: Chinese Association of Automation), 日本 The Robotics Society of Japan (RSJ), 韓国 Korea Robotics Society KROS), シンガポール Robotics Society of Singapore, タイ Thai Robotics Society (TRS)
・合意事項
(1) 次回5th ARSSMをIROS 2010, あるいはICRA2010の会場で開催することを検討するが、駄目な場合には国際会議と同時開催は条件とはしない。
(2) ARSUのWebsite (<http://www.asian-robotics.org/>) を活動の拠点とし、引き続き充実を図る。
・各国ロボット学会、研究の現状、各学会の受賞論文・技術の紹介。
・若手研究者ネットワークのメーリングリストを作成し、公開する。
・各国事務局担当者リストを掲載する。

・各国のロボット研究者データベースをRSJのRoboticsInJapanを参考に作成依頼。

- (3) MOUの作成
- (4) ARSU主催の国際会議を検討
- (5) インド, インドネシア, マレーシア等の参加検討

6. 情報発信, その他

- ・Robotics In Japanの英文ページの開設。
- ・日本ロボット学会英文ホームページのAR無料購読化に伴う変更への対応。
- ・Join RSJを5000部印刷し、ROMAN及びIROS会場で配布。
- ・欧文誌担当理事と協力し、IROS会場においてAdvanced Roboticsを配布。

7. 国際会議共催/協賛

本会に関連する国際会議を共催(6件)、協賛(13件)、後援(1件)した。

主な共催会議:

- ・18th IEEE Int'l Workshop on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2009)
期日: 2009年9月27日~10月2日, 会場: 富山, 日本
- ・2009IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2009)
期日: 2009年10月11日~10月15日, 会場: セントルイス, アメリカ

